



入 叔

日 本 書 院 藏

四 卷

日 本 書 院 藏



遠
1349
2

特
13
1549
4



あつたん せんせいのくまのり
日本契書始

四之巻

目録

第一 寡男の嫁と金持の邸の始

噓つた女房の始

一 女房の始

何うあはれあはれ

二階の揚屋の用取

婦女名代仕換を

何うあはれあはれ

第二

おれをばさくさく遣はれ根え

口説の洞よりいかに愛ふらね入

女房の中より愛さうらむ物恋はたま

およびぬか織の美園をね作病

第三

俄盲者の志の雲に迷ふ元更

府吏付の柳子ぬい徳師の若敷お

せんとあふ様下の編笠油いさく

打解の女房の煙云よわらねて眼

一

寡男の父傳は金銀おと廓の娘

長袖若舞多錢の賞内純一の愛舞抱る白拍子をん

今とれまぬ衣帯をねとよく愛ははくして是をせむに

外の舞姫よりいかに愛さうらむと奥ありと他の白拍子

屋よりいかに愛さうらむと奥ありと他の白拍子

ふく何れもひけてもほはらやいさか何ぞはと

今十倍の多銀は成すと然言はらで金のけりみより

すのまみはたまやうはま三百ぬあつて後で物物はた

新ふちつが女房の容色れとれらぬん也りて大分の金

とあし是は舞せいつかんと魂とるはゆふおねしとら

人の十枚おねか擧げて呼ぶともんわらぬとて呼ぶおね





